



2025年11月14日

各 位

会 社 名 株式会社進学会ホールディングス
代表者名 代 表 締 役 平井 将浩
(コード番号 9760 東証スタンダード)
問合せ先 取締役管理部長 竹山 正輝
(TEL 011-863-5557)

第2四半期業績予想と実績値の差異および通期業績予想の修正に関するお知らせ

2025年5月9日に公表した2026年3月期第2四半期(累計)連結業績予想と、本日公表の実績値に差異が生じましたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、2025年5月9日に公表いたしました2026年3月期通期連結業績予想を修正しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2026年3月期第2四半期(累計)連結業績予想と実績値の差

(2025年4月1日～2025年9月30日)

[単位百万円]

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 中間純利益 | 一株当たり 中間純利益 (円 銭) |
|-------------------------------|-------|------|------|-------------------------|-------------------------|
| 前回発表予想 (A) | 3,770 | △190 | △160 | △210 | △11.86 |
| 今回実績値 (B) | 3,397 | △607 | △633 | △771 | △44.31 |
| 増 減 額 (B-A) | △373 | △417 | △473 | △561 | |
| 増 減 率 (%) | △9.9 | — | — | — | |
| (参考) 前期第2四半期実績 (2025年3月期 中間期) | 2,804 | △437 | △457 | △499 | △28.15 |

2. 2026年3月期通期連結業績予想の修正 (2025年4月1日～2026年3月31日)

[単位百万円]

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 一株当たり 当期純利益 (円 銭) |
|----------------------|-------|------|------|-------------------------|-------------------------|
| 前回発表予想 (A) | 7,500 | 70 | 100 | 50 | 2.82 |
| 今回修正予想 (B) | 7,500 | △280 | △330 | △480 | △27.58 |
| 増 減 額 (B-A) | — | △350 | △430 | △530 | |
| 増 減 率 (%) | — | — | — | — | |
| (参考)前通期実績 (2025年3月期) | 6,245 | △434 | △473 | △562 | △31.78 |

3. 差異が生じた理由および修正の理由

① 第2四半期業績予想に関して

・投資部門以外（教育事業・スポーツ事業・物販事業・不動産事業）におきましては、教育事業での新学期生徒数を鑑みて第2四半期連結会計期間において、売上高1,770百万円、営業利益△190百万円、経常利益△160百万円、四半期純利益△210百万円として半期の計画を立てておりました。

・投資部門におきまして、第2四半期連結累計期間に売上高2,000百万円、営業利益0百万円、経常利益0百万円、四半期純利益0百万円として計画をしておりました。

上記2つを合算し、2026年3月期 第2四半期業績予想を売上高3,770百万円、営業利益△190百万円、経常利益△160百万円、四半期純利益△210百万円といったしました。

② 差異が生じた理由

・投資部門以外（教育事業・スポーツ事業・物販事業・不動産事業）におきまして、第2四半期連結会計期間の売上高が1,515百万円と計画の1,770百万円を255百万円下回りました。利益につきましては、昨年度より進めていた学習塾の会場統廃合による経費削減効果が出てきたことと講師数コントロールによる経費削減に注力したことにより、営業利益△82百万円、経常利益△98百万円、四半期純利益△190百万円となり、計画を上回りました。

・投資部門におきまして、第2四半期連結会計期間の売上高が1,882百万円と計画の2,000百万円を118百万円下回りました。また、利益に関しては、10月2日に開示した「連結子会社の保有する有価証券の評価損発生に関するお知らせ」のとおり、当社子会社SG総研において、参議院選挙後の政局、アメリカとの関税交渉の推移などによる株価の大きな変動により、第2四半期までの累計で△522百万円の有価証券評価損を計上いたしました。結果、投資部門の営業利益△524百万円、経常利益△535百万円、四半期純利益△580百万円と計画を下回るものとなりました。

上記2つを合算し、2026年3月期 第2四半期連結会計期間の売上高3,397百万円、営業利益△607百万円、経常利益△633百万円、四半期純利益△771百万円となりました。

③ 通期業績予想修正に関して

・投資部門以外（教育事業・スポーツ事業・物販事業・不動産事業）におきましては、教育事業において、不採算会場等の統廃合を行った結果、売上が減少する一方、経費の削減により利益の改善を見込んでおります。また、個別指導部門が堅調に推移しており、講座セット率の向上を行っております。不動産事業に関しては、所有する土地建物の売却による通期売上高1,000百万円を見込んでおります。これらのことから、通期で売上高3,500百万円、営業利益は0百万円を見込んでおります。

・投資部門におきまして、通期売上高 4,000 百万円を計画しております。また営業利益に関しましては上期で△524 百万円となりましたが、通期での営業利益については下期の営業利益を想定し△280 百万円を見込んでおります。

上記 2 つを合算し、2026 年 3 月期 通期業績予想は売上高 7,500 百万円、営業利益△280 百万円、経常利益△330 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益△480 百万円となっております。

※上記に記載した業績予想は、本資料発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって上記予想と異なる場合があります。